

無電柱化の推進

無電柱化については、都市景観への配慮や安全で快適な通行空間の確保等を踏まえ、全国大での合意(国土交通省、関係省庁、電線管理者等)に基づき、1986年度から計画的に進めています。

これまでの取組みにより、当社管内では、市街地の幹線道路等を中心に、約791km(2015年3月末現在)を無電柱化しました。

福岡県内の地中化路線(2014年度整備)



無電柱化前



無電柱化後

2. 発電所等の環境保全

大気汚染・水質汚濁・騒音などの防止

発電所等の設備運用にあたっては、法令はもとより、関係自治体と環境保全協定を締結し、これを遵守しています。また、排出ガスや排水等については、モニタリングの結果を関係自治体に報告するなど、周辺環境についても厳重に管理しています。

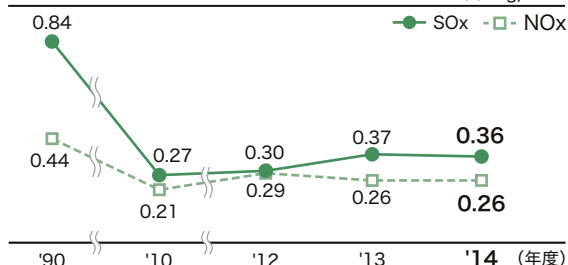
■ 大気汚染対策

火力発電所における発電に伴い、硫黄酸化物(SO_x)、窒素酸化物(NO_x)等が排出されますが、排煙脱硫装置、排煙脱硝装置等により可能な限り除去するなど、大気汚染防止に努めています。

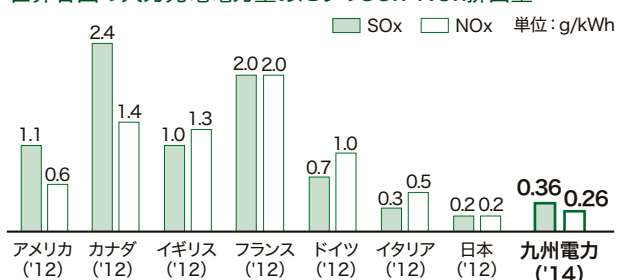
2014年度の火力発電電力量あたりのSO_xとNO_xの排出量は、SO_xが0.36g/kWh、NO_xは0.26g/kWhとなりました。2013年度実績と同程度ではありますが、東日本大震災前の実績(2010年度 SO_x:0.27g/kWh、NO_x:0.21g/kWh)と比べるといずれも高めの値となっています。これは、原子力発電所の停止に伴い、石油火力発電所の発電電力量が増えたことなどによるものです。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) > 火力発電所における環境保全対策のイメージ図

火力発電電力量あたりのSO_x・NO_x排出量 単位:g/kWh



世界各国の火力発電電力量あたりのSO_x・NO_x排出量



出典: [海外] (排 出 量) OECD, OECD, StatExtracts (Environment, Air and Climate)
(発電電力量) IEA, ENERGY BALANCES OF OECD COUNTRIES 2014 EDITION
[日本] 電気事業連合会調べ(10電力+電源開発(株))

■ 水質保全対策

火力・原子力発電所では、機器排水を排水処理装置で適正に処理するとともに、冷却水として使用する海水は、海域への影響を低減するため、周辺海域の特性に応じた取放水方式を採用しています。

水力発電所のダム貯水池では、定期的な水質調査、富栄養化対策や赤潮処理、濁水発生時の選択取水、周辺の荒廃山林の整備事業への協力など、水質保全に努めています。

用語集をご覧ください

>> 無電柱化
>> 大気汚染
>> 水質汚濁

>> 環境保全協定
>> SO_x(硫黄酸化物)
>> NO_x(窒素酸化物)

>> 富栄養化
>> 赤潮
>> 選択取水

■ 騒音・振動防止対策

低騒音・低振動型設備の採用や消音器・防音壁の設置、機器の屋内への設置などの対策を行っています。また、建設工事にあっても、低騒音・低振動型の建設機械を選定するなどの対策を行っています。

■ 土壌汚染対策

有害物質の土壌への排出、漏洩がないように努めるとともに、所有地の売却、用地の購入などにあたっては、自主的に土壌汚染調査を実施しています。

既存の所有地についても、予防的措置として、自治体の公表資料を基に、汚染の可能性がある所有地周辺の地下水汚染状況を調査し、当社に起因した汚染がないことを確認しました。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) ▶ 土壌調査要領

化学物質の管理

発電所等で取り扱う化学物質については、関係法令に基づいた適正な管理を行っています。

■ PRTR制度*

指定化学物質の排出量、移動量を調査集計するとともに、自主的に結果を公表しています。

※:PRTR制度(Pollutant Release and Transfer Register:化学物質排出移動量届出制度)とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握・集計し、公表する仕組み。

PRTR調査実績(2014年度)

単位: kg

物質番号	物質名	主な用途・発生設備	取扱量	排出量	移動量
33	石綿	保温材	960	0	960
53	エチルベンゼン	発電設備塗装	1,400	1,400	0
71	塩化第二鉄	排水処理剤	28,000	0	0
80	キシレン	発電設備塗装	9,900	9,900	0
164	2,2-ジクロロ-1,1,1-トリフルオロエタン(HCFC-123)	空調機器冷媒	2,800	240	0
240	スチレン	発電設備塗装	7,300	7,300	0
300	トルエン	発電設備塗装	4,900	4,900	0
382	ブロモトリフルオロメタン(ハロン-1301)	消火設備	22,000	0	0
392	ノルマル-ヘキサン	発電用ボイラー	2,700	2,700	0
400	ベンゼン	発電用燃料	35,000	95	0
438	メチルナフタレン	ディーゼル発電機	549,200	2,750	218

(注) 事業所における年間取扱量1トン以上の第1種指定化学物質(特定第1種指定化学物質は0.5トン以上)について集計(法に基づく届出値を集計)。

■ PCB(ポリ塩化ビフェニル)

PCB廃棄物には、絶縁材料としてPCBを使用した「高濃度PCB使用電気機器等」と絶縁材料に何らかの原因で微量のPCBが混入し汚染された「微量PCB汚染廃電気機器等」があります。当社が保有する高濃度PCB使用電気機器等は、2006年度から、JESCO(中間貯蔵・環境安全事業(株))のPCB廃棄物処理施設において、計画的に無害化処理を進めており、2015年3月末現在の処理率は99%となっています。

また、微量PCB汚染廃電気機器等については、無害化処理認定制度等により処理が可能となった一部の電気機器等の無害化処理を、2010年度から開始しており、法定期限までの処理完了に向けて、計画的に処理を進めています。

なお、PCB廃棄物は、廃棄物処理法などに基づき厳重に保管・管理を行っています。



PCB廃棄物の保管・管理状況

■ 石綿(アスベスト)

当社の建物及び設備の一部には、飛散性があるとされる「吹付け石綿」と、通常状態において飛散性がない「石綿含有製品」を使用しています。

吹付け石綿は、関係法令に基づき適切に対策工事を実施し、すべての使用箇所での飛散防止対策を完了しています。

石綿含有製品については、定期検査や修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品への取替えを進めています。

また、建物・設備を解体する際には、法令などに基づいて飛散防止措置を徹底の上、適切に解体・搬出・処理を行っています。

WEB 詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) ▶ 石綿の使用状況

用語集をご覧ください

▶▶ステークホルダー
▶▶土壌汚染
▶▶PRTR(制度)
▶▶指定化学物質
▶▶石綿(アスベスト)

▶▶エチルベンゼン
▶▶塩化第二鉄
▶▶キシレン
▶▶2,2-ジクロロ-1,1-トリフルオロエタン(HCFC-123)

▶▶スチレン
▶▶トルエン
▶▶ブロモトリフルオロメタン(ハロン-1301)
▶▶ノルマン-ヘキサン

▶▶ベンゼン
▶▶メチルナフタレン
▶▶第1種指定化学物質
▶▶PCB(ポリ塩化ビフェニル)